



敬愛

令和3年9月17日

文責 輿石 信

第9号



「敷島中ホームページ」へ

第59回年輪祭 ～皆さんの姿はとて凛々しく、そしてカッコよかったです～

○ 開祭式／初のリモート実施となりました

9/15(水)の午後、開祭式が体育館で行われました。生徒会本部役員と開祭式実行委員が中心となり、リモートで各学級で生徒が参加しました。

辻生徒会長の開祭宣言から始まり、全校制作、学級旗の紹介と続きました。全校制作は466人の全校生徒の思いを乗せた鳥が未来に向かって羽ばたいていく様子が美しく表現されていました。学級旗は力作ぞろいで学級テーマや目標が絵と文字によって伝わってきました。続いてのコンピュータ部、英語部、美術部の発表は、作品の出来栄が見事で、日頃の活動の成果が感じられました。後半は、エッサッサ隊演技、吹奏楽演奏と続きました。エッサッサ隊は堂々かつ迫力があり、年輪祭への大きなエールとなりました。吹奏楽部は音のまとまりや強弱など質が高く、もっと聞いていたいと思わせるものでした。開祭式全体の構成もオリジナル台本によるストーリー仕立てで楽しめるもの仕上がっていて、年輪祭、そして敷島中への思いを強く感じることができました。



○ 体育部門／一生懸命な姿・楽しい笑顔にあふれました



9/16(木)秋晴れのもと、体育部門が開催されました。開会式は、聖火入場、校旗掲揚、選手宣誓と、体育の祭典にふさわしい華やかさと厳かさを感じました。取組期間の短縮により種目数は3種目と縮小しましたが、生徒一人一人がそれぞれの競技に一生懸命に真剣に取り組んでいました。本当に美しい姿でした。

また、クラスの仲間や同系列の上級生や下級生を応援する姿や喜びを分かち合う姿、拍手、笑顔、歓声など、普段の学校生活では見られない生き生きと躍動する姿をたくさん見ることができました。競技以外の場面ではマスクを着用するなど、コロナ感染予防を自覚して行っていたことも立派でした。

○ 閉祭式／「全校ソーラン」学校が一つになりました

今年度、初めて生徒全員による集団演技としてソーラン節に取り組みました。経験者は3年の女子のみというところからのスタートでしたが、体育の授業を中心に分散登校中も半数ずつ練習するなどして本番を迎えました。

体育部門長の秋山さんの号令のもと、全校生徒が一つになって踊る姿、「どっこいしょ、どっこいしょ」「ソーラン、ソーラン」のかけ声は大迫力で、一人一人の力が結集したエネルギー大きなうねり、敷島中が一つになったことを感じました。大きな宝となりました。



○ この経験を次のステージへ／経験という「点」を成長という確かな「線」に

閉祭式の生徒の感想発表からは、取組を通してクラスの絆が強まっていったこと、協力することやお互いを思いやることの大切さ、周りの人への感謝など、多くのものを学んだ様子がうかがえました。

今日から通常の生活に戻りますが、一人一人が年輪祭の取組をしっかりと振り返り、成果と課題を明らかにし、日々の生活に生かしていくことが大切です。その積み重ねの中に一人一人の成長があります。

○ たくさんの参観ありがとうございました

時間入れ替え制や事前の健康チェックなど制約の多い中での参観でしたが、260人を超える保護者の方にお越しいただき、子供たちの頑張る姿や笑顔を見ていただくことができ、本当にうれしく思っています。分散登校となり準備期間が短い中、子供たちは真剣かつ一生懸命に取り組んでいました。本当によくやったと思います。

これも各家庭のご理解と支えがあったることと感謝しております。ありがとうございました。

切り取り線

<年輪祭を参観しての感想> 年組 保護者名() 生徒名()

※よろしければ、年輪祭をご覧になっての感想をお寄せください。今後の取組に生かしていきたいと思えます。

※お子さんを通じて9/24日(金)までに、担任の先生に提出してください。